国内マーケット

自動車関連ビジネスへの参入や拠点拡充

融資含め総合的に支援

中古整備機器のオルタライフ

ファンドが協力　1件300～500万円

自動車整備機器買い取り・販売のオルタライフ（三谷卓也社長、埼玉県戸田市）は、整備工場など自動車関連ビジネスへの新規参入や拠点拡充を、融資を含め総合的に支援する事業を開始する。日本政策投資銀行などが組成するファンド「とうきょう活性化基金投資事業有限責任組合」の協力を得て実現した。同社から必要な整備機器を購入することを前提に、開業資金を提供。〝ヒト・モノ・カネ〟など開業に関わるすべての事柄についてサポートする。業界の活性化と、潜在顧客の掘り起こしにつなげる。

オルタライフは自社のウェブサイト上で「自動車ビジネス開業ナビ」を運営し、約300件の整備工場の独立を手助けしてきた。しかし「これまでは資金が調達できなかった」（三谷社長）ために中古整備機器の販売などが中心で、総合的なサポートができないことが課題だった。

今回ファンドのバックアップで融資が可能となったことで「開業に必要な資金、整備機器、人材、工場届出、必要に応じて土地の情報など、トータルで見ることができるようになった」（同）としている。同社から資金提供を受ける事業者は、社債を発行する。その他の複雑な手続きをする必要はない。社債の期間や金利などの詳細は現在調整している。

2月末から自社サイトで募集を開始し、初年度に10件程度の開業を支援したい考え。融資額は1件300万～500万円を想定している。6月の「オートサービスショー」でも紹介する。

同ファンドは首都圏の中小企業が対象。経済の活性化を目的に融資するもので、第1号案件にオルタライフが採用された。日本政策投資銀行の企業ファイナンス部の五嶋翔平調査役は、同社への融資実行を決めた理由について「①整備業の潤沢な内需②車検制度の輸出など外需も取り込んでいける可能性③会社として上場を目指して社内体制を構築」を挙げる。

また、整備工場では、後継者問題などにより事業継続を断念する事業者も増加傾向にある。政投銀では、M&Aや事業提携などもプログラムとして持つため、オルタライフによる橋渡しにも期待している。

木修委員長（スズキ会長兼社長）は、軽自動車の普及拡大と人気の高まりの要因について

『軽がいい』とユーザーの意識も変化した。第三者のRJCに軽自動車を褒めて頂いた、評価頂いたことは非常に嬉しい」と喜びの言葉を述べ

る。1社最大で4人まで参加が可能。

のら猫コンサルタントが見た自動車販売店のなぜ ⑭⑨

皆さんは普通の白無地のタオルが千円だとしたら迷わず購入するだろうか。そもそもタオルをわざわざ百貨店や専門店で買った経験などお持ちだろうか。

かくいう私もタオルを購入するということ自体あまり馴染みがないが、購入してもショッピングセンターで3枚500円程度だろうか。そんな中で1枚千円を下らない値段で売るタオルが存在する、しかも白無地のフェイスタオル。「今治タオル」がそれだ。

「今治」。「いまじ」ではなく「いまばり」と読む。愛媛県の造船とみかんで有名な町で、古くから日本のタオル産地、その生産量は日本一を誇る。しかし近年、安い海外製タオルに押され国内のタオル生産量、売上は下がる一方、そこに来て生産工場の高齢化と後継者不在が続き、タオル産地としての今治は、存続の危機に瀕して

はこの危機を乗り越え策を、ある人物に委ね る。クリエイティブ・ の佐藤可士和氏だ。 代ホンダ・ステップワ で一躍有名になり、そ ロなどのロゴやセブン の戦略を手掛ける広 所。そこで示された商 値戦略により、下降の 生産量が徐々に増加に 高は劇的に飛躍する。 ントは「今治タオル」 質規定の実施と徹底し 化。

成功までには紆余曲 が、一貫して曲げな ブランド化を徹底す 柱が白無地に拘る こ に映えるブランドロ を付けて目立たせる。 カー名さえ識別番号 底ぶり。こうして「

いた。 その 況下の 年、タ 業者 タオル

ザ・ビートルに3色の限定車